



コラム 教えて！エリ先生

この時期の発達過程

6か月頃になるとだんだん母乳の栄養だけでは足りなくなり、離乳食が始まります。それまでは抱っこをしてお母さんと密着した状態で母乳やミルクを飲んでいた赤ちゃんも、お母さんから離れ対面に座って食事が出来るようになります。離乳食の開始は単に食べ物が固体物に変わったという側面だけでなく、このように密着から分離の位置関係に変わった事で、自立への一歩を踏み出したことを表しています。

またこの頃からだんだん仰向けからの寝返りも出来るようになりますし、お腹を床につけたままのズリバイをするようになってくるので、赤ちゃんの行動範囲は一気に広がりをみせます。腰も据わってくるので支えがあればお座りも出来るようになっていくでしょう。お座りが出来るようになったら両手が自由になるので、指先を使った遊びなどもこの頃から取り入れていくと良いと思います。

また、この頃から物の永続性を理解出来るようになっていきます。物の永続性とは、例えば目の前のぬいぐるみが布などで隠されて見えなくなってしまっても、まだぬいぐるみはそこにあると認識出来ることです。物の永続性を理解できていない段階の赤ちゃんは、目の前のぬいぐるみが隠れてしまったらもう永遠に消えてしまったと思ってしまいます。物の永続性が理解出来るようになったら楽しめる定番の遊びが「いないないばあ」です。

「いないない」で一度視界からお顔が消えてしまったママが「ばー」で赤ちゃんの期待通りにまたあらわれる。これが赤ちゃんにとってはとても楽しいようです。また「ばー」といった時の楽しい気持ちを大人と共有し合う事によって情緒的な結びつきも出来ると考えられています。ぜひご家庭でも取り入れられてみてはいかがでしょうか。

この時期のお悩み

手に届くものは何でも触り、何でもお口に入れてしまうのもこの時期ですね。特に赤ちゃんは、お母さんやお父さんの使っているスマホやお財布、鍵など日常の中にある本物が大好き！赤ちゃんが日常の中にある本物を好むのは、生まれてきたこの世界に適応しようとしているあらわれでもあります。自分で触ったり持ったり握ったりしてその物の大きさや重さ、手触りなどを自分で確かめながら、この世界(先ずはお家ですね)のことを学んでいます。誤飲の事故に繋がるような危ないを取り除いて、本物をたくさん触らせてあげるのも良いと思います。例えば調理前の野菜や果物などの食材を触らせてあげる事も、赤ちゃんにとっては楽しい学びになります。

また発達に個人差が大きい時期。なかなかズリバイをしないというお子さんも過度に心配する必要はありませんが、例えば家具や電化製品などで赤ちゃんの動きの障害物になるものがあるとズリバイの妨げになってしまうこともありますので、この機会に室内の環境を見直してみるのも良いかもしれません。空間の中で自由に身体を動かして良いのだと感じる事が重要なので、必要な時以外は出来るだけサークルなどの使用は避けて、マットの上などで自由に動くことをさせてあげられるといいですね。赤ちゃんから少しだけ離れた位置のところに、お気に入りの玩具を置いてあげる事も「あれを取りたい！」と這うことへの動機づけになるのでおすすめです。

子どもは毎日自分のペースで成長しています。ズリバイやハイハイが始まったら、お腹を床につけて手足をバタバタ動かす飛行機ポーズの姿もなかなか見られなくなってしまいます。全て今だけの貴重な瞬間なのだと捉えて、一瞬一瞬の姿を大事に見守っていけたらいいですね。

井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。
アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。
また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。
アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。
インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE 2
(6~8ヶ月)

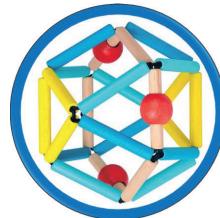


保育園がつくる
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

1 GRABBER (エド・インター)

なかなか寝返りしないんです‥そんなお悩みにもGRABBERは強い味方です。仰向きに寝ころがった赤ちゃんの横に置いて「触ってごらん」と誘ってみましょう。ラトルの中では背が高く赤ちゃんの視線に入りやすいのが特徴です。手を伸ばしてみよう、と首や背中をそらし、くるんと自分の身体を回転させるコツが掴みやすいのです。ボールほど転がっていかないので、うつ伏せの遊びに長く付き合ってくれます。丈夫なゴムでつながっていて、くにゃりと潰れ、またすぐに元の形に戻る、幾何学的デザインは不思議でインテリアっぽさもありますね。



2 ラトルカラーフラワー (ハバ社)

うつ伏せした赤ちゃんはきれいな丸っこいお花に興味津々、手を伸ばして自然とピボットターンが誘えます。コマのように回すこともでき、カラフルな花びらがくるくるまわると、見惚れるほどの虹色に！大人に抱っこされながらお座りの姿勢にしてもらうと、花びらをつまんで、ひねって、引っ張って、指先を器用に動かすことに繋がります。振ると中心部の鈴が鳴ることも、自分で気づいて見つめている時がありますから、「そうだね、この鈴がいい音出してくれたよね」と言語化してあげてくださいね。



3 いろはタワー (エド・インター)

タワーのかたちをしたラトルです。横にしてころころ転がすと、木の球の心地よい音が響きます。縦にして上下を返すとバラバラと落ちる球の動きを楽しめます。ハイハイが始まるとこにはラトルタワーを横にして転がしてあげると、赤ちゃんの目の前で音をたてながら、カラコロと色の移り変わりを楽しむことができます。



4 はめこ (グリムス社)

大人から「触っちゃダメ」と言われがちな【器】の形。赤ちゃんに思う存分持たせてあげませんか？うつ伏せの赤ちゃんの目の前で大人がくるくるとカップを回転させてあげると釘付け！触りたくって一生懸命手を伸ばします。大人に支えられてお座りしている時は、カップを片手で持ったり両手で持ったり、いつの間にか左右で持ち替えることも出来ていきます。上から掴むように持っていたカップを段々と丁寧に持つ練習にも。カップの内側と外側の違いを、じい～っと観察している時もあります。うつ伏せにしたカップの中に何かを隠して見せると、7ヶ月には無くなったりと認識していたのが、8ヶ月過ぎると「ここに入っているんでしょう？」と、確かめるようになります。1才頃からはじめてのままごとも、「入れる」「出す」だけの遊びでなく幅広い学びが体験できるおもちゃです。



5 ファンジーボール (ボーネルンド)

動きの異なる3種類のボールのセットです。予測できない動きの面白さに、赤ちゃんも好奇心から思わず手を伸ばしたり、追いかけてハイハイしたりと、自然とからだ遊びが生まれます。

【あそびのヒント】

いろいろなものに興味を持つ赤ちゃん期に今日はこのボールで遊んでみようとの日の気分で選びながら、反応を楽しみながら遊びましょう。赤色：球体が少しづれたようなデザインで、ジグザグに転がります。黄色：黄緑の部分に重りが入っており、不規則に転がります。青色：波模様状に突起があり、くねくねと転がります。



6 ミニティヴィティ (セレクタ社)

6 ミニティヴィティ (セレクタ社)

色鮮やかなドイツ・セレクタ社の仕掛け玩具。歯車・回転鈴・ノブと、それぞれの遊びで誘われる指先の動きは異なります。触ることで、手加減・感触・音・色彩など五感に心地よい刺激が伝わり、繰り返し確かめるように触れて、その感覚は脳に記憶されていきます。ベビーカーやベビーベッドへの取り付けも可能です。

絵本 いないないばあ



「あかちゃんだからこそ美しい日本語と最高の絵を」の想いから、日本初の本格的なあかちゃん絵本として誕生して半世紀、世代を越えて読みつがれています。

この絵本はあかちゃんとコミュニケーションをとる方法に悩まれているご家族にぴったりの絵本です。「いないないばあ」と語りかけて一緒に楽しむことで、大人もあかちゃんも笑顔になり、心の交流を通じて親子の信頼を深めるきっかけになります。



絵本 ぶうさんのブー



子供のぶうさんは、どんなときも「ブー」としか言いません。おはようも「ブー」。おいしいときも「ブー」。楽しいとき、困ったとき、痛いときも「ブー」。いろんな思いがこもった「ブー」の言葉が楽しめます。現在、絵本やイラストで大活躍の作家、100% ORANGEさんがはじめて手がけた赤ちゃん絵本です。鮮やかな色彩、斬新な構図とデザイン。そしてシンプルでわかりやすい言葉。赤ちゃんはぶうさんと一緒になって、いろんな「ブー」を楽しんでくれることでしょう。

うた わらべうた



YouTube「このトイ」チャンネルで紹介しております。
QRコードよりご確認ください。